



## 「小中一貫教育の推進」に向けて思うこと

学校教育課 指導管理主事  
林 克 宏

あけましておめでとうございます。日頃から、各学校では、「学力の向上」、「いじめ・不登校の減少」に向けて、校長先生のリーダーシップのもと全職員が一丸となって取り組んでいることと思います。皆様のご尽力に感謝いたします。

さて、「小中一貫教育の推進」ですが、各学校における取組のもう一步のレベルアップに向けての有効な手立ての一つと考えていただけるとありがたいです。

十日町市では、平成 23 年度から、モデル 4 中学校区で試行を開始しました。他の中学校区では、本年度から、推進会議を位置づけ、平成 26 年度の本格実施に向けてスタートしました。「9 年間を見通した連続性のある教育」を実践するにあたり、私が考えていることを二つ紹介させていただきます。

一つ目は、学校文化の違いを知ることが自己の教師力 UP につながるということです。

「小学校と中学校の違いは何でしょうか？」また、「そのことのメリットとデメリットは何でしょうか？」……。さて、皆さんはどのように答えるでしょうか？

「教科担任制」、「学習時間」、「授業の進め方」、「学習や生活の約束事」、「服装」等々。一般的なこと、中学校区によることなどたくさんの方があるでしょう。

こんなテーマで研修してみることも一つの方法でしょう。メリットとデメリットの部分をはっきりできたらしめたものです。デメリットの部分に焦点をあてていけばよいわけですから……。もちろん、学年の持ち味への配慮は必要です。このような分析力は様々な教育活動を推進するための自分自身の力になっていくと思います。

二つ目は、「全職員の力を一点に集中すること」が成果につながるということです。

「〇〇部会の開催」、「〇〇指導計画の作成」、「合同修学旅行」、「授業研究の実施」、「小・中及び小・小交流事業の実施」……。多くの実践がされております。

児童・生徒の実態に応じてですが、例えば、「話を聴くこと」や「発表すること」、「かわりあうこと」、「自分で考えること」、「食や生活習慣の改善」などに特化して、9 年間を見通した教育実践も面白いのではないかと考えます。これは、「学習」や「社会性」の向上の根幹の部分にあたります。

各中学校区からは、素晴らしい成果につながっている報告もいただいております。これまでの「小中連携のつながり」を大切にしながらも、スクラップ&ビルドです。百の教育活動の内、一つのことに一貫教育のスタートでもよいのではないのでしょうか？全職員で、実践し、成果を検証しながら、少しずつ、広げていけばよいと思います。

「今日も良かった。明日が楽しみ。」、「今日の〇〇の時間の△△って面白かった。家に帰ってもう少し調べてみよう。」下校時、こんな児童・生徒の会話が聞こえる学校が理想だと思います。縁あって、十日町市の学校教育をともに進めることになった私たちです。小中一貫教育の実践が、充実したやりがいのある教職生活につながることを期待します。

# 新しい年に!! 小中一貫教育に思いを寄せて

本年は、小中一貫教育の試行の最後の年に入ります。本格実施を1年2か月後に控え、様々な立場の方々から、小中一貫教育に寄せる期待、感想、課題等、様々な思いを綴っていただきました。



## 確かな学力の育成を期待します

県立十日町高等学校長 上村栄市

本校の生徒は約 80 %が十日町市、津南町出身です。したがって、この地域の中学生の長所も課題もほぼストレートに本校に反映されますが、今一番の課題は学力向上です。特に新入生の英語、数学の学力不足は深刻で、進路希望として圧倒的に多い大学進学に対応できるレベルまでもって行くのに大変苦勞している現状があります。

こうしたことから、私は、小中一貫教育のメリットの中でも特に「確かな学力の育成」に期待しています。小学校から中学校に進むと、授業の方法、科目、難易度などが大きく変わり、このことが中学生の成績にばらつきを生じさせる大きな要因とされていますが、この解決のために、乗り入れ授業をはじめ小・中学校の先生方の学習指導における連携・協力が進められていると聞いています。こうした取組が効を奏し、義務教育の9年間で育まれた確かな学力を高等学校で更に進展させることで、生徒たちに学力という未来を切り拓く大切な力を、しっかりと身に付けさせたいと思います。

## 小中一貫教育の可能性

十日町中学校長 徳永袈裟一

子どもは、多様なかかわりと経験を通して成長していくものです。そして、かかわりと経験が多いほど、知性と感性はより豊かになります。

小中一貫教育は、小学1年生から中学3年生までが学習と活動を共に行います。その過程では、多くの大人とのかかわりもあります。小学校と中学校が協働して教育活動に取り組むことで、子どもたちにこれまでにないかかわりと経験を提供し、確かな成長に大きく寄与する可能性を持っています。

2学期に、児童会・生徒会共催の「あいさつ運動」が行われました。小学校の校門に「おはようございます」の元気なあいさつが響きました。朝のひととき、中学生は母校の校舎と後輩を懐かしそうに。小学生は大きな先輩を頼もしく仰ぎながら。とてもさわやかな風景でした。

小中一貫の取組だからできたこと。その朝の光景は、新たな地平の始まりを感じさせてくれました。

## 希望をもって進学するために

西小学校長 阿部道夫

当校は、進路指導の参考にと6年生に中学校へ進学するにあたっての心境を聞いた。大半の子どもたちが、中学校入学後に「したいこと」や「楽しみにしていること」があると答えている。多い方から挙げると、部活動・友達づくり・学校行事の順である。同時に、入学にあたって不安や心配事を抱いていることも確かである。こちらの方は、勉強についていけるか・友達ができるか・上級生とうまくやっていけるかである。

各中学校区においては、以前から一日入学や説明会を実施し、かつ職員間では公開授業研究に取り組んできた。今回の調査から、子どもたちは中学校の情報を一日入学や学校日より、各種行事などから得ていることが分かった。これまでどおり中学校区で小学校間の交流を進めながら、オープンスクールや乗り入れ授業等を実施し、小学校の子どもたちが中学校の教科や学習についての理解を深めていくことが得策と考える。

### 小中一貫に思いを寄せて

千手保育園長 佐藤千恵美

早くから川西地域は保・小・中の連携が進んでおり、とてもよいことだと感じていました。

実は、私も15年も前でしょうか、保育園児が小学校へ行ってどうなっていくのか、とても気になっていました。それで何人かの小学校の先生たちと懇談会をもって、話し合ったことがあり、とても有意義でした。

それが、近年は保・小・中の連携が強化され、保育を理解していただき、遠慮なく小中学校に連絡がとれるようになりました。

保育園児0～5歳までが散歩に出掛けるのは小学校のグラウンドで遊ばせていただくことが度々あります。また、中学校へ出掛け、吹奏楽部の皆さんから幼児向けの曲を演奏してもらったりしています。

保育園としては小さな体験活動ではありますが、きっと一貫教育に反映していくと思います。小中学校から今後も保育園にボランティアなど来てくださると嬉しいです。

### 先生方ありがとう

十日町中学校保護者 篠原裕子

私は十日町中学校PTAで副会長をしているという縁で、保護者代表という立場から十日町市小中一貫教育連絡協議会委員をさせていただいています。会議に参加する度に思うのは、学校の先生方は、今までの仕事でも時代の変化とともに大変なのに、それにプラスして小中一貫教育のために様々な勉強会や取組を行い、「大変だなあ」という事です。ただただ頭が下がります。先生方、ありがとうございます。

私が住んでいる地域には東小学校があり、卒業後は十日町中学校と中条中学校に分かれます。そのため、小中一貫教育の取組は、拡大中学校区（中学校2校、小学校4校）で行われています。24年10月5日に拡大中学校区のPTA交流会が行われ、パワーポイントを使って、先生方が小中一貫教育についての説明をしてくださいました。とても分かりやすく、今後の取組に期待が持てました。私たち親も、大切な子どものために頑張ります。

### 15の春に大きな夢を！

馬場小学校教諭 笠原健児

現在、水沢中学校区の3校は、学力の更なる向上に力を注いでいる。中学校の「夏季学習会」には、小学校職員も参加し、生徒に教える。開始から5年にもなる取組で、懐かしい小学校職員からも個別指導を受けることができ、生徒からも好評である。また、この取組を通して職員は常に小中のつながりを考えて授業づくりをしようとする意識も高まる。

そして、小中職員がグループを作りともに授業を計画したり行ったりする「小グループ研修」、学習指導を主眼に置いた「職員研修」も活発である。

さらに、水沢小と馬場小の児童の交流活動を「みずばしょう（水馬小）交流」と名付け、合同授業や体験活動も行っている。児童同士の関係をしっかりと作り、中学校へ送り出したいと願う。

小中一貫教育本格実施を機に、3校職員一丸となり「15の春に大きな夢を！」のスローガンの具現化を目指している。

### 小中連携で吉田の元気度アップ！

吉田小学校養護教諭 藤田芳恵

吉田中学校区では、一昨年度から「早寝・早起き・朝ごはん・メディアコントロール」をスローガンに、3校合同で以下の2つの取組を行っています。

①「生活チェック週間・ノーテレビウィーク」の実施

②小学校5・6年生と中学校1年生が縦割り班を組んで学び合う小中合同保健指導「吉田パワーアップ作戦」の開催

小中が同じ目標をもち、継続して取り組むことが大きな力となっています。年を追うごとに、児童生徒のよりよい生活習慣に対する意識の高まりや、数値の改善が見られています。また、小中合同保健指導は「中学校1年生がリーダーシップを発揮する場」「小学生同士が交流する場」としても機能しており、中1ギャップ解消への手立てともなっています。

「自分の力で健康に生きる力を身に付ける」ことを9年間の最終目標に、小中が連携した取組を今後も続けていきます。

## 校区の子どもをみんなで育てる

川西中学校教諭 小森一秀

川西中学校区では平成 23 年度から小中一貫教育モデル中学校区の指定を受け、取組を進めています。私が 2 年間コーディネーターを務めてよかった取組を報告します。

### ○中学校での小中交流会

「中学校は怖いと思っていたけど、中学生と活動するのは楽しい」と 6 年生の児童が、小学校に戻って語っています。

### ○乗り入れ授業、中 1 補習を通して

同じ計算問題を解く方法の指導が、小学校と中学校で変わってくることを、職員同士が理解し、指導方法の改善につながりました。

### ○交流活動全体を通して

中学校区の職員と児童・生徒交流が増え、職員も校区の子どもたちと一緒に育てる気持ちが共有できるようになりました。

今後も、職員・子どもたちのよりよい成長を目指し取組を推進します。

## つなぐ

松之山地域住民 田辺久子

松之山には「すこやか子育て委員会」があります。保育園・小中学校・高校・医師・警察・行政・PTA等が連携して「子どもの健やかな育ちと育て」を目指しています。事業の一つに、「子育てグループワーク」があります。年間 10 回程度の開催ですが、子育て関係者の研修の場となっています。趣旨は、「個別の事例を通して問題の背景などを探る力を養う。」「解決の糸口を導き出す。」「提案者の悩みを理解することに努める。」です。それぞれの専門性を生かし、学び合いながら皆で地域の子育てを考えるとともに、問題を一人で抱え込まない、一人で悩まないという関係者のメンタルヘルスにも一役を担っています。

松之山は顔の見える小さな地域です。この地域ならではの方法で、子育て力を高め地域力を高め、保育園・小・中・高と途切れることのない子育てにつないでいってほしいと願っています。

## 情報の共有と有効運用で支援の継続を！

中里中学校教諭 武田比呂美

小中連携の鍵は「情報の共有化」です。支援を要する子に関する情報がうまく伝われば、対応策を準備し不応を減少させることができます。各学校が教育活動を見直し、「いつ」「誰が（教員・保護者）」「どのように」行うかを意図的・計画的に進める必要があります。「情報」は、それを「生かす」人にとって価値をもち、より一層有効な情報となります。

義務教育最後の 3 年間では、中 1 スタート 3 か月こそ最も丁寧な対応が必要です。当中学校区では、引継ぎを支援度に応じ早ければ 1 年前から順次進めます。また年 3 回の小中特別支援教育班会議の 1 回目（5 月）に保健師さんと連携をスタート。6 月には、中学担任が作成した個別の指導計画を小学校の教員と一緒に検討し修正しました。

全ての情報を引き継ぐことは不可能ですが『フェイス to face』な関係が、その後の行動連携を生み出していくと確信しています。

## 乗り入れ授業を振り返って

松代中学校教諭 井澤未希

松代中学校区では、この 2 年間、小学校 5・6 年生に乗り入れ授業を行ってきました。年に 5 回程度、算数の授業を担当してきて、小中連携の大切さを実感する場面がいくつかありました。

1 つ目は、小中の授業のつながりを考えるようになったことです。中学校で扱う単元を小学生向けに行ったときには、小学生が解ける問題も中学校で方法を変えて学習すると伝えることで、数学への意欲をもった児童の感想が見られました。

2 つ目は、異なる小学校の児童が同じ内容を学習したという実感をもっていることです。昨年乗り入れ授業を行った現在の中学 1 年生の授業中、生徒同士で互いに「これは乗り入れ授業でやったことだよ」と言う声が聞かれました。

私自身、これまで以上に小学校の算数について考える機会となりました。今後の小中一貫教育につながるよう、より一層小中連携を図っていければと思います。



## モデル中学校区2月の活動予定



毎月ここに掲載している各モデル中学校区の活動予定は、どなたでもその活動を見ていただけるように紹介しているものです。モデル中学校区では、毎月公開授業や公開活動をしています。今月は紹介内容が少ないですが、年間を通じて、時間を見つけてぜひお出掛けください。その際には、当該学校へ一声掛けてからお出掛けください。

日時	<内容>	会場	見どころ
5日(火) 13:40～15:40	<交流活動>	下条小学校 体育館	・本年度3回目の小中一貫の縦割り班活動です。班でのゲームや豆まきを通して、ジャンボ若葉班での小中学生のふれあいを深め、今年一年間一緒にやってきた班の仲間への感謝の気持ちをメッセージ交換等を通して高めます。
6日(水) 15:30～	<プロジェクト会議>	孟地小学校	・中学校区の研究主任が中心となり、学力向上対策について、今年度の振り返りをし、次年度の方向性を明確にします。
26日(火) 13:30～14:20 6年(算数) 14:25～15:15 6年・中学生 (交流活動) <乗り入れ授業・交流活動>		松代中学校 視聴覚室 体育館	・「体験入学Ⅱ」として位置付け、保護者の学習参観や説明会も予定しています。中学校区の3小学校の6年生と一緒に算数の学習や中学生との交流活動を体験します。

